

2 流域及び河川の自然環境

2-1 自然環境

紀の川を上流部・中流部・下流部・汽水域に分けて、各区分の特性について示す。

区分については次のとおりである。

上流部：源流～五條

中流部：橋本～岩出井堰

下流部：岩出井堰～紀の川大堰

汽水域：紀の川大堰～河口

源流の大台ヶ原は吉野熊野国立公園が位置するなど山岳美を特色としている。また、上流部は河畔林が連続する区間があり、低水路は露岩した箇所が多く見られる。中流部は複数の井堰が設置されており、それらによる湛水域と瀬と淵が繰り返されている。下流部は紀の川大堰の湛水域であり緩流部が多く占める。汽水域は干潟が形成されるなど多様な環境が見られる。

水辺の国勢調査によると、植物は 111 科 605 種、魚類は 20 科 59 種、甲殻類は 18 科 28 種、底生動物は 117 科 240 種、鳥類は 31 科 97 種、両生類は 2 科 5 種、爬虫類は 5 科 6 種、哺乳類は 9 科 16 種、昆虫類は 209 科 1135 種が確認されている。



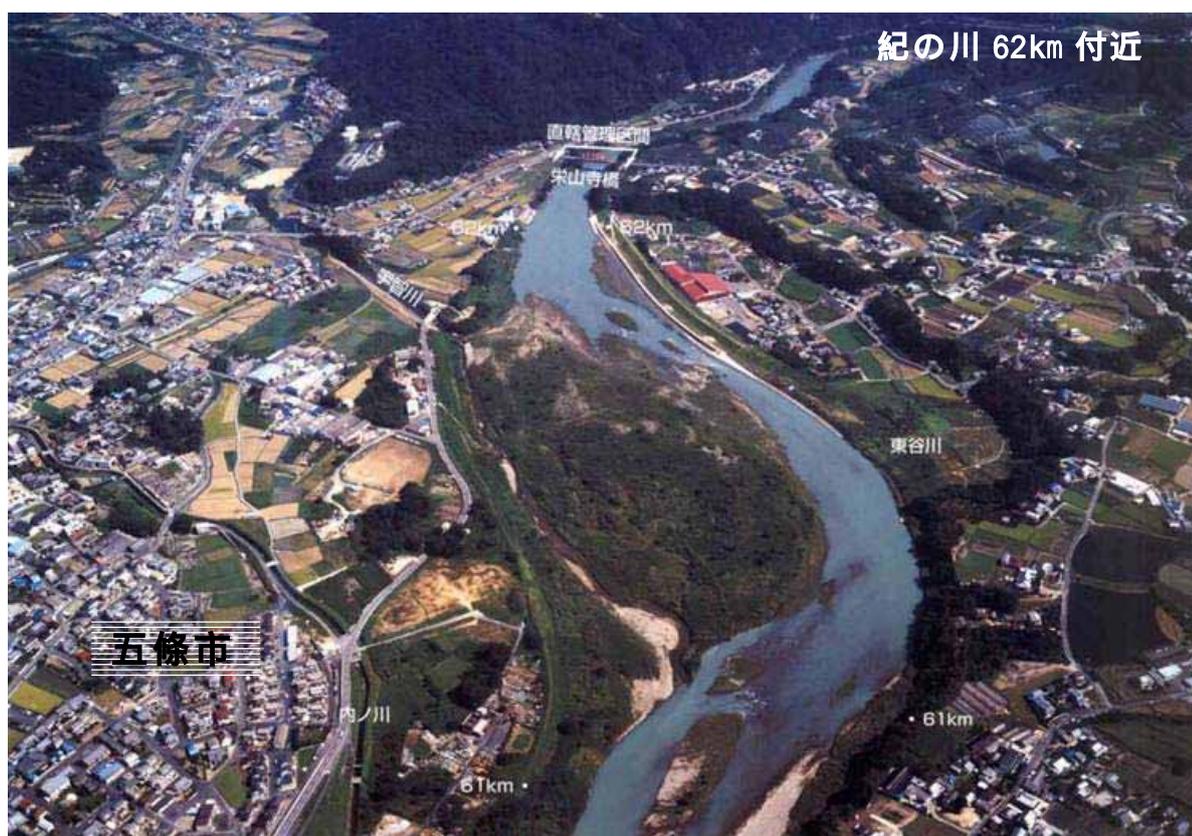
図 2-1 紀の川における河川環境区分

2-2 河川の自然環境

(1) 上流部（大台ヶ原～五條）

源流の大台ヶ原は、国の天然記念物に指定されている「^{きんのこう}三ノ公トガサワラ原始林」をはじめ、分布のほぼ南限となるトウヒ林や、太平洋型のものとしては本州で最大規模のブナ林が分布している。

一方、源流を下ると「日本三大人工美林」の一つに数えられる吉野杉の産地となり広大な人工林が広がる。これらの森林から発した流れは吉野川と呼ばれ、露岩した渓流を流れ下る。水辺にはユキヤナギなど岩場を利用する植物が生育しており、ヤマセミも見られる。また、五條市付近では竹林やケヤキ、ムクノキ等が河畔林を構成し、サギのねぐらなどに利用されている。



出典：和歌山河川国道事務所

上流部の代表的な動植物



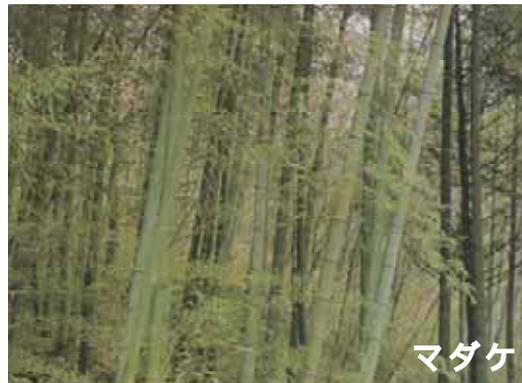
ヤマセミ

山地の溪流や湖沼に棲息し、大きな淵や湖沼の岸に突き出た枝の上などにとまって魚を探し、急角度で水中にダイビングして魚を捕える。停空飛翔からダイビングすることもあり、長さ 20cm 位の大きさの魚まで捕えることができる。繁殖期には川や湖の岸边やその近くの土の崖に、くちばしを使って巣穴を掘る。



ユキヤナギ

生息地は、川岸の岸壁の割れ目や砂礫地。大雨で増水すると水没して濁流に洗われるようなところに生える。



マダケ

ケヤキ、ムクノキ等と河畔林を形成する。

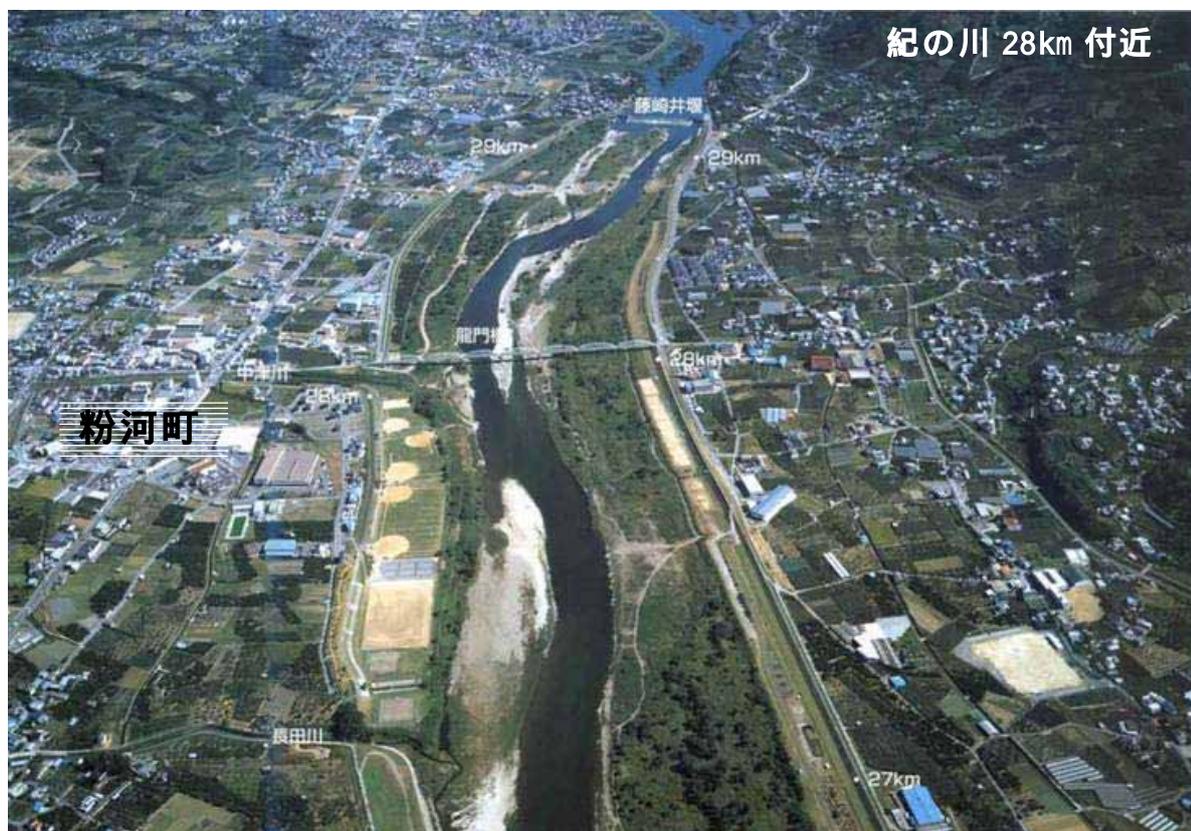
出典：「川の生物図典」（財）リバーフロント整備センター
：「葉でわかる樹木」、馬場多久男

(2) 中流部（橋本～岩出井堰）

中流部は、多くの支川が合流し、河川の北側に迫る山地にかけて河岸段丘を形成している。この区間では、複数の堰が設置されており、瀬と淵、堰の湛水域が交互にみられる。堰の湛水域はカモ類の集団越冬地に利用され、中州に繁茂するヌルデ・アカメガシワ群落等の低木林や竹林はサギ類やカワウの集団ねぐらになっている等、多様な鳥類の生息地となっている。また、寄州や中州が特に発達した区間であり、オギ群落、ヨシ群落、ツルヨシ群落、1年生草本群落であるヒメムカシヨモギ・オオアレチノギク、ヤナギ群落が繁茂している他、湿地に生育するカワヂシャやタコノアシ等の特定種もみられる。

魚類では、緩流域に生息するズナガニゴイ、アブラハヤ、ドンコ、アカザ等がみられ、早瀬に生息するアユやカワヨシノボリもみられる。

また、下流域と同様に、高水敷のヨシ・ツルヨシ群落などではカヤネズミやキツネ、ノウサギ、イタチが生息している。堤内地より流れ込む水路周辺やたまりとなっている場所では、ウシガエルやヌマガエル等の両生類やカナヘビやミシシippアカミミガメ等の爬虫類が生息している。



出典：和歌山河川国道事務所

中流部の代表的な動植物



カワセミ

平地から山地の川、池、湖などの水辺に棲息し、単独またはつがいで見られる。水中にダイビングして魚を捕える。水辺の土の崖に、くちばしを使って50～100cm位の深さの巣穴を掘る。水辺からかなり離れた崖が使われることもある。



スナガニゴイ

大きな川の中下流から汽水域まで、また湖にも生息する。流れの緩やかな水域の底層部、特に砂底に多い。深いところを好み、河川では主に淵に集まる。産卵場所は概ね中流域であり、産卵行動は降雨後に行われる。



タコノアシ

泥湿地、沼、水田、河川敷のヨシ原の周囲などに生息し、休耕田にも多い。湿地などの水位の変動する場所に多く生息する。



カワヂシャ

水田や川岸、田のあぜなど、湿潤な場所に生育する。高さは生育環境によって様々で、富栄養な用水路などでは1mに達する大きな株になり、貧栄養なため池では5cmほどの個体が花を咲かせていることもある。水田では、ちょうど5月の中旬頃、田植え前に姿を見せるが、その後はパツリと見かけなくなる。5月から6月に、葉腋から細長い花序を伸ばし、白色から淡紫色の花を多くつける。

出典：「川の生物図典」、(財)リバーフロント整備センター
：「レッドデータプラント」、(株)山と溪谷社

(3) 下流部（岩出井堰～紀の川大堰）

紀の川大堰から川^{かわ}辺橋^{へし}付近までは、紀の川大堰の湛水域であり、緩やかな水面勾配となっている。湛水域内には、人工的に設置した直^{のうがわ}川ワンドや西田井^{にしだい}ワンドがあり、フナ等の流れの緩やかな水域を好む魚類の生息場となっている他、稚仔魚、水中昆虫類の成育場、出水時の避難場、産卵場、カモ類等の水鳥の休息場となっている。

川辺橋付近から岩出井堰までは、低水路の蛇行が連続し、瀬と淵が交互にみられる。瀬は、アユ等の魚類の餌場や産卵場となっており、淵は、魚類の休憩場やカモ類の集団越冬地となっている。

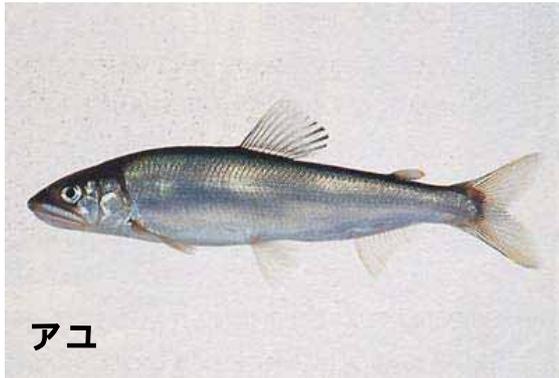
寄州や中州には、ヨシ、オギ等の高茎草本群落が生育し、オオヨシキリの営巣場所となっている他、カヤネズミやキツネ、ノウサギ等の哺乳類も生息している。また、ジャヤナギ - アカメヤナギ群落、アキニレ群落、ヌルデ - アカメガシワ群落等の低木林では、サギ類のねぐらとして利用されている。

堤内地より流れ込む水路周辺やたまりとなっている場所では、ウシガエルやヌマガエル等の両生類やシマヘビやミシシippアカミミガメ等の爬虫類が生息している。



出典：和歌山河川国道事務所

下流部の代表的な動植物



春から秋にかけて、若魚期から成魚期を、主として川の中流域で生活するが、孵化した仔魚は秋に海に下り、翌春まで稚魚期を海で送る(両側回遊型)。溯上期の河川中流域では岩盤や石礫のあるところで、その上の付着藻類を食う。



河川の下流域および湖沼に広く分布する。成魚は浅く開けた場所に生息し、下流の平瀬から淵にかけて多い。付着藻類を中心に流下・落下昆虫・底生昆虫を摂餌する。



川や湖沼の岸、休耕田などのヨシの草原に主に生息し、特に水中からヨシが生えているような場所を好む。茎から茎へと移動しながら昆虫を捕らえる。巣は数本のヨシの茎にまたがって作られ、葉や茎を主材料にコップ形をしている。

出典：「川の生物図典」、(財)リバーフロント整備センター

(4) 汽水域（紀の川大堰～河口）

和歌山市北部を流れる河口域では、堤内地の市街化が進み、高水敷には運動公園、緑地等人為的な改変が行われている。堤外地には、まとまった植生はみられないものの、海水と淡水が混じり合う水際には、シオクグ、ウラギク等の塩性の植物が生育している。

河西橋^{かさいばし}から紀の川大堰までの干潟には、希少種が多数生息し、多様な生物相を有していることから、環境省の重要湿地に指定されている。シオマネキの生息数は近畿地方最大であるほか、タイワンヒライソモドキの生息地の北限であり、シギ・チドリ類の摂餌場となっている。また、ミサゴやセグロカモメ等の上位性の鳥類が生息している。

魚類では、汽水域であることから、アカエイ、ボラ、アカメ等の汽水・海水魚が生息している。



出典：和歌山河川国道事務所

汽水域の代表的な動植物



ミサゴ

海岸、大きな川、湖などに棲み、よく水面上を高く飛びながら魚を探している。獲物を見つけると停空飛翔で狙いをつけ、頭を下げて脚を前に突き出した体勢で水に突っ込む。捕らえた魚は岩や杭の上、木の枝など一定の食事場所へ運んで食べる。



シオクグ

海岸の海水の出入りする泥湿地に生育する。しばしば河口干潟の最前線に群落を形成する。繁殖は種子と地下茎で、節から葉や茎を出して広がる。カニ類の生息地となることが多い。

出典：「川の生物図典」、(財)リバーフロント整備センター
「日本動物大百科 鳥類」、平凡社



シオマネキ

汽水域の上限に近い河口・干潟に生息し、高潮線付近で、大潮の日でないとき冠水しないような場所を好む。土質のやや堅い塩性草原に孔を掘って生息する。



タイワンヒライソモドキ

甲羅の幅が10数mmの小型のイワガニ科のカニで、河川汽水域潮間帯の転石下に生息し、大阪湾から台湾まで記録があるが、まとまった個体群としては、和歌山県の紀の川が北限であると考えられている。

出典：「原色日本大型甲殻類図鑑」、保育社

(5) 支川貴志川（紀の川合流点^{もろいぼし}～諸井橋）

支川貴志川は、堤内地には田園が多く、一部宅地が隣接している箇所もあることから、高水敷は、人工草地やグラウンド、セイダカアワダチソウ群落が多く、人為的な影響が強く見られる。一方、低水路内に形成された寄州には、ミゾコウジュやカワヂシャ、タコノアシ等の特定種^他、オギやツルヨシ等の高茎草本群落が生育しており、カヤネズミやキツネ、ノウサギ、イタチが生息している。

また、堤内地より流れ込む水路周辺やたまりとなっている場所では、アマガエルやトノサマガエル等の両生類やカナヘビや等の爬虫類が生息している。また、周辺に水田が多いことから、チュウサギが多く見られる。

本川紀の川に設置されている岩出井堰の湛水域となっている合流点の淵では、沈水・浮葉植物であるササバモが多く繁茂し、コイ、フナ等の流れの緩やかな水域を好む魚類が生息している。また、6km 付近ではゲンジボタルの放流が行われており、鑑賞会が催されている。



出典：和歌山河川国道事務所

貴志川の代表的な動植物



水田や湿地で生活し、川の流れの中や干潟に出ることは少ない。日本には夏鳥として渡来し、本州から九州まで各地で繁殖する。同じサギ科の鳥類とともに平地の林で繁殖コロニーをつくる。



湖沼、河川、水路などに群生する沈水～浮葉植物。水中茎の全長は3mを超えることもある。水が引くと陸生形を形成してよく生育する。冬には地下茎の先端に殖芽を形成して越冬。



河川下流にある水たまり、水田とその小水路、浅い池沼など、止水域に広く生息する。食性としては動・植物プランクトンを食べる。また小さな落下昆虫なども捕食する。



川の上流域下部から中流までの淵を中心に生息する。水田の用水路や池などで出現する場合には、地下水が豊富に湧く環境であることが多い。泥底よりは、砂底、礫底を好む。稚魚は湿性植物の根際や、浅いところに石の間で成長し徐々に深みに移る。肉食性で、カワムツ類、ハゼ類、甲殻類などを大きな口で捕食する。

出典：「川の生物図典」、(財)リバーフロント整備センター
「日本水草図鑑」、角野康郎

(6) 紀の川における特定種

紀の川における特定種を、河川水辺の国勢調査等の調査結果をもとに、レッドデータブック・レッドリスト（環境省）記載種、天然記念物指定種等の学術上又は希少性の観点から抽出した。

表 2-1 特定種の選定基準一覧表

No.	法令・文献等	カテゴリー	
		凡例	選定基準の詳細
①	天然記念物	特 国 県 市	国指定特別天然記念物:「文化財保護法」(1950)により、特別天然記念物に指定されているもの 国指定天然記念物:「文化財保護法」(1950)により、天然記念物に指定されているもの 和歌山県指定天然記念物 和歌山市指定天然記念物
②	種の保存法	I II	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1993)における希少野生動植物種 国内希少野生動植物種 国際希少野生動植物種
③	改訂・環境省(環境庁)レッドデータブック及びレッドリスト	EW CR+EN CR EN VU NT DD LP	1999年に改訂された汽水・淡水魚類、2000年に改訂された無脊椎動物編(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの掲載種 及び、 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—爬虫類・両生類」(環境庁編、2000)、 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—植物 I (維管束植物)」(環境庁編、2000)、 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—鳥類」(環境省編、2002)、 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—哺乳類」 野生絶滅:飼育・栽培下のみ存続している種 絶滅危惧 I 類:絶滅の危機に瀕している種(植物) 絶滅危惧 I A類:ごく近い将来における絶滅の可能性が極めて高い 絶滅危惧 I B類: I Aほどではないが、近い将来における絶滅の可能性が高い 絶滅危惧 II 類:絶滅の危険が増大している種 準絶滅危惧:現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては 絶滅危惧に移行する可能性のある種 情報不足:評価するだけの情報が不足している種 地域個体群:地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群
④	水産庁データブック	危惧 危急 希少 減少 減傾 地域	「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック(水産庁編)」(社団法人日本水産資源保護協会、1998)の掲載種 絶滅危惧:絶滅の危機に瀕している種・亜種 危急:絶滅の危険が増大している種・亜種 希少:存続基盤が脆弱な種・亜種 減少:明らかに減少しているもの。 減傾:減少傾向:長期的に見て減少しつつあるもの。 地域:地域個体群:保護に留意すべき地域個体群
⑤	植物レッドデータブック	E V R U	「我が国における保護上重要な植物種の現状」(財団法人日本自然保護協会・財団法人世界自然保護基金日本委員会・我が国における保護上重要な植物種及び植物群落の研究委員会植物種分科会、1989)の掲載種 人為の影響の如何に関わらず、個体数が異常に減少し放置すればやがて絶滅すると推定される種 絶滅に向けて進行しているとみなされる種。今すぐ絶滅という危機に瀕することはないが、現状では確実に絶滅の方向に向かっていると判断される種 特に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種 危険性が高く実状がよく分からない種
⑥	レッドデータブック近畿2001	絶滅 A B C 準 情報不足	改訂・近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿2001—(レッドデータブック近畿研究会編著、2001) 絶滅種 (近畿地方では絶滅したと考えられる種類) 絶滅危惧種 A (近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種類) 絶滅危惧種 B (近い将来における絶滅の危険性が高い種類) 絶滅危惧種 C (絶滅の危険性が高くなりつつある種類) 準絶滅危惧種 (生育条件の変化によっては、「絶滅危惧種」に移行する要素をもつ種類) 情報不足 (「環境庁2000年版」に近畿での分布情報があるが、標本資料が確認できず、「情報不足」として扱った種類)
⑦	近畿レッドデータブック2002	ランク1 ランク2 ランク3 ランク4 要注目種	「近畿地区鳥類レッドデータブック」(山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著、2002)の掲載種 危機的絶滅危惧:絶滅する可能性がきわめて大きい 絶滅危惧:絶滅する可能性が大きい 準絶滅危惧:絶滅する可能性がある 特に危険なし 要注目種:ランク4と判定された種のうち、何らかの攪乱によって一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。

⑧	干潟レッドデータブック	「WWF Japan Science Report Vol.3」(財団法人世界自然保護基金日本委員会, 1996)の掲載種		
		寸前	絶滅寸前:人為の影響の如何に関わらず、個体数が異常に減少し、放置すればやがて絶滅すると推定される種	
		危険	危険:絶滅に向けて進行しているとみなされる種。今すぐ絶滅という危機に瀕するということはないが、現状では確実に絶滅の方向へ向かっていると判断されるもの	
		希少	希少:特定種に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種	
⑨	緑の国勢調査1	○	「緑の国勢調査(自然環境保全調査)」(環境庁, 1973)のすぐれた自然調査対象種	
⑩	緑の国勢調査2	第2回緑の国勢調査(第2回自然環境保全基礎調査)(環境庁, 1978)において保護上または学術上の理由により、環境庁及び和歌山県が選定した調査対象種		
		植物群落	A	原生林もしくはそれに近い自然林
			B	国内若干地域に分布するが、きわめて稀な植物群落または個体群
			C	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等、分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
			D	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの。
			E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
			F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採などの手が入っていないもの
			G	乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
			H	その他、学術上重要な植物群落または個体群
		鳥類	○	繁殖地を公表することによって好ましくない影響が生じることがないように配慮すべき種
		爬虫類・両生類	○	環境庁指定の調査対象種
		淡水魚類	○	環境庁指定の調査対象種
			和歌山	和歌山県指定の調査対象種
陸上昆虫類	指標	環境庁指定の指標昆虫		
	A	日本国内では、そこにしか産しないと思われる種		
	B	分布域が国内若干の地域に限定されている種		
	C	普通種であっても、北限・南限など分布限界になるとと思われる種		
	D	当該地域において絶滅の危機に瀕している種		
	E	近年当該地域において絶滅したと考えられる種		
	F	業者あるいはマニアなどの乱獲により、当該地域での著しい減少が心配される種		
	G	環境指標として適当であると考えられる種		
⑪	和歌山県RDB	「保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック」(和歌山県環境生活部環境生活総務課, 2001)の掲載種		
		動植物	EX	絶滅:県内ではすでに絶滅したと考えられる種
			CR+EN	絶滅危惧I類:絶滅の危機に瀕している種
			CR	絶滅危惧I A類:ごく近い将来における野生での絶滅の危険性がきわめて高いもの
			EN	絶滅危惧I B類: I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性がたかいもの
			VU	絶滅危惧II類:絶滅の危機が増大している種
			NT	準絶滅危惧:存続基盤が脆弱な種
			DD	情報不足:評価するだけの情報が不足している種
			SI	学術的重要:現状においては絶滅の危険度は少ないが、学術的に価値に値する種
			LP	絶滅のおそれのある地域個体群:地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
		植物群落	1	良好:本来の自然の状態、または評価されるべき優れた状態がよく保たれている
			2	やや良:本来の自然の状態、または評価されるべき優れた状態がよく保たれているが、一部よくないところがある
			3	不良:本来の自然の状態、または評価されるべき優れた状態がよく保たれているとは言えないが、一部よい状態が残っている
			4	劣悪:本体の自然の状態、または評価されるべき優れた状態が質的、または量的に劣悪化している
			5	壊滅:群落が壊滅状態にある

分類群	紀の川管理区間	「重要な種」の位置付資料									
		天然記念物			種の保存法	環境庁 RED	水産庁 RED	和歌山 RED	干潟 RED	近畿 RED (植物)	WWF Japan Science Report
		国	県	市							
鳥類	アジサシ				危険Ⅱ						
	アマツバメ						地域				
	イカルチドリ						準危険				
	ウズラ				不足		準危険				
	ウミネコ						地域				
	オオタカ			国内	危険Ⅱ		危険Ⅱ				
	オシドリ						準危険				
	カワセミ										
	クイナ						準危険				
	コアジサシ						危険ⅠB				
	コチドリ						準危険				
	コミミズク						危険Ⅱ				
	ササゴイ						準危険				
	サシバ						準危険				
	シロチドリ						準危険				
	チュウサギ					準危険		準危険			
	チュウヒ					危険Ⅱ		危険Ⅱ			
	ツクシガモ					危険ⅠB		危険ⅠB			
	ツバメチドリ					危険Ⅱ					
	ツミ							準危険			
	ハイロチチュウヒ							準危険			
	ハイタカ					準危険		準危険			
	ハチクマ					準危険		準危険			
	ハヤブサ			国内	危険Ⅱ		危険Ⅱ				
	ヒクイナ						危険Ⅱ				
	ミサゴ					準危険		準危険			
	ヤマセミ							危険Ⅱ			
ヨシガモ											
両生類	トノサマガエル						準危険				
昆虫類	イトアメンボ				危険Ⅱ						
	エサキアメンボ				準危険						
	キイロカワカゲロウ										
	キバナガミズギョウモムシ						準危険				
	セアカオサムシ						危険Ⅱ				
	ハネナシアメンボ				準危険		準危険				
	ハネナガイナゴ						準危険				
	ミナミアオカメムシ										
	ムスジイトンボ						準危険				
	モンスズメバチ										
植物	ウラギク				危険Ⅱ		危険Ⅱ				
	エビネ				危険Ⅱ		危険ⅠB				
	オオタニワタリ				危険ⅠB		危険ⅠA		重要		
	カワヂシャ				準危険		準危険				
	カワラサイコ						危険Ⅱ		重要		
	カワラハハコ								重要		
	ユギシギシ				危険Ⅱ						
	ササハモ						準危険				
	シオクグ								重要		
	タコノアシ				危険Ⅱ		危険Ⅱ		重要		
	ハマウツボ						絶滅		重要		
	ヒメミソハギ								重要		
	フジバカマ				危険Ⅱ				重要		
	船岡山のコジイ							郷土			
	ミコシガヤ								重要		
	ミゾコウジュ					準危険		危険Ⅱ	重要		
	ミノボロ								重要		
ヤガミスゲ								重要			
ヤブスゲ								重要			
ユキヤナギ								重要			

分類群	大滝ダム管理区間	「重要な種」の位置付資料								
		天然記念物			種の保存法	環境庁 RED	水産庁 RED	哺乳類学会 RED	改訂・近畿 RED	近畿鳥類 RED
		国	県	市						
哺乳類	カモシカ	国特								
	カヤネズミ						不能			
	カワネズミ						希少			
	スミスネズミ							希少		
両生類	オダイガハラサンショウウオ	県天			地域	希少				
は虫類	ハコネサンショウウオ						減傾			
	インガメ						減傾			
昆虫類	オオオカメオロギ					不足				
	ハマダラハルカ					不足				
	ギフチョウ					危険Ⅱ				
	ベニモンカラスジミ					準危険				
植物	アオネカズラ								危険C	
	イワオモダカ								危険A	
	オオクボシダ								危険A	
	オオヒキヨモギ					危険Ⅱ			準危険	
	オオヤマサギソウ								準危険	
	カワラハハコ								危険B	
	キンラン					危険Ⅱ			危険C	
	ケグワ	県天							準危険	
	コウヤグミ								危険C	
	コケシノブ								準危険	
	シギンカラマツ								準危険	
	シラン						準危険		危険C	
	シロバナハンショウヅル								準危険	
	トンボソウ								準危険	
	フウラン						危険Ⅱ		危険A	
	ホウライカズラ								準危険	
	マツバラソウ						危険Ⅱ		準危険	
マメツラン						危険Ⅱ		準危険		
ミヤコミズ						危険Ⅱ		準危険		
ムカデラン						危険Ⅱ		危険A		
ムギラン						危険Ⅱ		準危険		
メヤブソテツ								準危険		
ヤマシャクヤク						危険Ⅱ		危険C		
ユキヤナギ								準危険		
(群音類)	キジノゴケ					危険Ⅰ				
	キブリハネゴケ					危険Ⅰ				
	コキジノゴケ					危険Ⅰ				
	セイナンヒラゴケ						準危険			
	タチチョウチンゴケ						危険Ⅰ			
	マツムラゴケ						準危険			
	天然記念物-国天…国指定の天然記念物						干潟 RED-危険…危険			
天然記念物-国特…国指定の特別天然記念物						干潟 RED-希少…希少				
天然記念物-県天…県指定の天然記念物						近畿 RED-重要…保護上重要な植物種				
天然記念物-市天…市指定の天然記念物						水産庁 RED-危険…絶滅の危機に瀕している種及び亜種				
種の保存法-国内…国内希少野生動物種						水産庁 RED-希少…存続基盤が脆弱な種及び亜種				
種の保存法-国際…国際希少野生動物種						水産庁 RED-減少…明らかに減少しているもの				
環境庁 RED-危険ⅠA…絶滅危険ⅠA類						水産庁 RED-減傾…長期的に見て減少しているもの				
環境庁 RED-危険ⅠB…絶滅危険ⅠB類						WWF Japan Science Report-寸前…絶滅寸前と推定される種				
環境庁 RED-危険Ⅱ…絶滅危険Ⅱ類						WWF Japan Science Report-危険…絶滅に向けて進行している種				
環境庁 RED-準危険…準危険危険						WWF Japan Science Report-希少…もの個体数が非常に少ない種				
環境庁 RED-不足…情報不足						哺乳類学会 RED-希少…存続基盤が脆弱である種				
和歌山 RED-絶滅…絶滅種						哺乳類学会 RED-不能…情報が不足している種				
和歌山 RED-危険ⅠA…絶滅危険ⅠA類						改訂・近畿 RED-危険A…絶滅危険種A				
和歌山 RED-危険ⅠB…絶滅危険ⅠB類						改訂・近畿 RED-危険B…絶滅危険種B				
和歌山 RED-危険Ⅱ…絶滅危険Ⅱ類						改訂・近畿 RED-危険C…絶滅危険種C				
和歌山 RED-準危険…準絶滅危険						改訂・近畿 RED-準危険…準絶滅危険種				
和歌山 RED-不足…情報不足						近畿鳥類 RED-危険Ⅰ…絶滅危険Ⅰ類				
和歌山 RED-学術…学術的重要						和歌山 RED-学術…学術的重要				
和歌山 RED-地域…絶滅のおそれのある地域個体群						近畿鳥類 RED-危険Ⅱ…絶滅危険Ⅱ類				
和歌山 RED-郷土…郷土景観を代表する植物群						和歌山 RED-地域…絶滅のおそれのある地域個体群				
						近畿鳥類 RED-準危険…準絶滅危険				
						和歌山 RED-郷土…郷土景観を代表する植物群				
						近畿鳥類 RED-重要…重要種				

(7) 紀の川における代表種

紀の川の河川環境を特徴づける種(代表種)として、既往の河川水辺の
国勢調査結果をもとに選定した種は、下記に示すとおりである。

区分	主な環境の構成要素	河川環境を特徴づける種	集団分布地、繁殖(産卵)地、ねぐら
上流域 62k400～ 51k200	水域 ・早瀬、淵 陸域 ・中州・寄州 ツルヨシ・杉	魚介類： <u>アブラハヤ</u> 、アマゴ 底生動物： <u>オオカラカサ</u> 、 <u>チャバ</u> 、 <u>社ケ</u> 、 <u>ナガ</u> 、 <u>カトビ</u> 、 <u>ケラ</u> 植物： <u>竹林</u> 、 <u>ユキヤナギ</u> 、 <u>ケヤキ</u> 鳥類： <u>コチドリ</u> 、 <u>カセミ</u> 、 <u>ヤマセミ</u>	鳥類： <u>カワウ</u> の集団分布地 <u>イワツバメ</u> の集団繁殖地
中流域 51k200～ 16k900	水域 ・早瀬、淵、湛水域 陸域 ・中州・寄州 ツルヨシ・杉	魚介類： <u>アユ</u> 、 <u>スナガ</u> 、 <u>ニコイ</u> 、 <u>アブラハヤ</u> <u>アカザ</u> 、 <u>ドンコ</u> 底生動物： <u>キロカワカゲ</u> 、 <u>ウツ</u> 、 <u>シマビ</u> 、 <u>ケラ</u> 植物： <u>オキ</u> 、 <u>カワチ</u> 、 <u>シヤ</u> 、 <u>タクノアシ</u> 鳥類： <u>カワウ</u> 、 <u>カセミ</u> 、 <u>サギ</u> 類 両爬哺： <u>カエル</u> 類、 <u>ミシシビ</u> 、 <u>アカミミガメ</u>	鳥類： <u>サギ</u> 類の集団ねぐら <u>スズメ</u> の集団ねぐら <u>カモ</u> 類の集団越冬地 <u>ヒメアマツバメ</u> の集団繁殖地
下流域 16k900～ 6k200	水域 ・湛水域、早瀬 淵、ワンド 陸域 ・中州・寄州 ツルヨシ・杉	魚介類： <u>アユ</u> 、 <u>アカザ</u> 、 <u>スナガ</u> 、 <u>ニコイ</u> 、 <u>モクス</u> 、 <u>ガニ</u> 底生動物： <u>キロカワカゲ</u> 、 <u>ウツ</u> 、 <u>シマビ</u> 、 <u>ケラ</u> 植物： <u>オキ</u> 、 <u>カラサイコ</u> 、 <u>カワチ</u> 、 <u>シヤ</u> 鳥類： <u>オオソシキ</u> 、 <u>ミサゴ</u> 、 <u>チュウサギ</u> 、 <u>カワウ</u> 両爬哺： <u>カエル</u> 類、 <u>キツネ</u> 、 <u>カネスミ</u> 、 <u>スッポン</u>	鳥類： <u>サギ</u> 類の集団ねぐら <u>ムクドリ</u> 、 <u>スズメ</u> の集団ねぐら <u>カモ</u> 類の集団越冬地 魚類： <u>アユ</u> の産卵場
汽水域 6k200～ -1k000	水域 ・汽水域 陸域 ・運動公園、緑地	魚介類： <u>ホラ</u> 、 <u>アカメ</u> 、 <u>コイ</u> 、 <u>シヨネキ</u> 、 <u>タイワンヒライソト</u> 、 <u>キ</u> 底生動物： <u>ホトキ</u> 、 <u>スカイ</u> 、 <u>ノキ</u> 、 <u>リカ</u> 、 <u>ザミ</u> 植物： <u>オキ</u> 、 <u>ヨシ</u> 、 <u>シオク</u> 、 <u>ウラキ</u> 、 <u>ク</u> 鳥類： <u>ミサゴ</u> 、 <u>オオソシキ</u> 、 <u>セグロカメ</u> 、 <u>アジ</u> 、 <u>サシ</u> 両爬哺： <u>ウツ</u> 、 <u>カエル</u> 、 <u>イタチ</u> 、 <u>タヌキ</u>	鳥類： <u>カモ</u> 類の集団越冬地
支川貴志川 0k000～ 6k400	水域 ・早瀬、淵、湛水域 陸域 ・人工草地、グラウンド	魚介類： <u>アユ</u> 、 <u>オカワ</u> 、 <u>コイ</u> 、 <u>タカハヤ</u> 、 <u>ドンコ</u> 、 <u>メダカ</u> 底生動物： <u>トウヨウモンカゲ</u> 、 <u>モンカゲ</u> 、 <u>ロウ</u> 、 <u>フタスジ</u> 、 <u>モンカゲ</u> 、 <u>ロウ</u> 植物： <u>オキ</u> 、 <u>セイダ</u> 、 <u>カワダ</u> 、 <u>チソ</u> 、 <u>カワチ</u> 、 <u>シヤ</u> 、 <u>ササ</u> 、 <u>ハ</u> 、 <u>モ</u> 鳥類： <u>チュウサギ</u> 、 <u>カワウ</u> 、 <u>カセミ</u> 両爬哺： <u>カエル</u> 類、 <u>キツネ</u> 、 <u>スッポン</u>	鳥類： <u>サギ</u> 類の集団ねぐら

下線は特定種を示す。

表 2-3 区間毎の主な環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地、繁殖地

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 特徴的な河川景観

紀の川は、昔から船岡山などその美しい景観が万葉集にも多く詠われ、人々にやすらぎを与えてきた。紀の川の景観としては、汽水域に形成された干潟、中下流域では、^{あずしま}小豆島、船岡山の中州、連続的な瀬と淵、堰の湛水区間、上流域や大和丹生川、紀伊丹生川等に見られる溪谷・溪流があげられる。

また、紀の川周辺には、^{ねごろじ}根来寺、^{じそんいん}慈尊院、^{なるたき}鳴滝遺跡、^{いわせせんづか}岩橋千塚古墳群など多くの史跡や文化遺産がある。このように、自然の河川景観と川と人々との関わりによって形成された景観が相まって、紀の川の特徴を創出している。



河口部の干潟（和歌山市）



船岡山（かつらぎ町）



瀬と淵



溪谷（吉野町^{みやたき}宮滝）

(2) 文化財及び遺跡等

紀の川流域には国指定の文化財が 216 箇所、県指定が 225 箇所ある。特に、慈尊院を含む熊野古道は、平成 16 年ユネスコの世界遺産に登録され、今後益々紀の川周辺に多くの人々の来訪が予想される。



岩出町：根来寺多宝塔



粉河町：粉河寺



桃山町：三船神社

出典：和歌山河川国道事務所

国 宝 表 2-4 流域の国 宝 及 び 重 要 文 化 財

	名 称	数	場 所	年代	指定年月日
建	1 根来寺多宝塔(大塔)	1塔	和歌山県那賀郡岩出町大字根来	1555	1899/04/05
	2 榮山寺八角堂	1塔	奈良県五條市小島町	765	1901/3/27
	3 金峯山寺本堂	1塔	奈良県吉野郡吉野町大字吉野山	1591	1902/4/17
	4 金峯山寺二王門	1塔	奈良県吉野郡吉野町大字吉野山	1456	1906/4/14
工	5 沃懸地螺鈿金銅装神輿	1基	粉河町中鞆淵	鎌倉:1228	1956/6/28
	6 銀銅蛭巻太刀拵	1口	かつらぎ町上天野	鎌倉	1955/2/2
絵	7 紙本著色粉河寺縁起	1巻	粉河町粉河	鎌倉	1953/3/31
考	8 人物画像鏡	1面	橋本市隅田町垂井	古墳	1951/6/9
彫	9 木造弥勒仏坐像	1躯	九度山町慈尊院	平安	1963/7/1

重要文化財

	名 称	数	細 目	場 所	年代	指定年月日
1	護国院多宝塔	1塔		和歌山県和歌山市紀三井寺	1449	1908/4/23
2	東照宮	7塔	本殿、石の間、拝殿	和歌山県和歌山市和歌浦	1621	1916/5/24
			唐門		1621	
			東西瑞垣		1621	
			東西瑞垣		1621	
			楼門		1621	
			東西廻廊		1621	
			東西廻廊		1621	
3	天満神社本殿	1塔		和歌山県和歌山市和歌浦	1606	1916/5/24
4	加太春日神社本殿	1塔		和歌山県和歌山市加太	1596	1931/12/14
5	和歌山城岡口門	1塔		和歌山県和歌山市一番丁三番地の二	1621	1957/6/18
6	旧柳川家住宅 (旧所在 和歌山県海南市黒江)	2塔	主屋	和歌山県和歌山市岩橋一、八二二番地 紀伊風土記の丘	1807	1969/3/12
			前蔵		1807	
7	旧中筋家住宅	6塔	主屋	和歌山県和歌山市祢宜一四八番地	1867	1974/2/5
			表門		1867	
			長屋蔵		1867	
			北蔵		1867	
			内蔵		1867	
			御成門		1867	
8	護国院鐘楼	1塔		和歌山県和歌山市紀三井寺	1614	1908/4/23
9	天満神社楼門	1塔		和歌山県和歌山市和歌浦	1605	1935/5/13
10	旧谷山家住宅 (旧所在 和歌山県海草郡下津町)	1塔		和歌山県和歌山市岩橋一、八二二番地 紀伊風土記の丘	1749	1969/3/12
11	護国院楼門	1塔		和歌山県和歌山市紀三井寺	1466	1908/4/23
12	天満神社	2塔	末社多賀神社本殿	和歌山県和歌山市和歌浦	1614	1974/5/21
			末社天照皇大神宮豊受大神宮本殿		1614	
13	利生護国寺本堂	1塔		和歌山県橋本市隅田町下兵庫	1392	1965/5/29
14	野上八幡宮本殿	1塔		和歌山県海草郡野上町小畑	1572	1944/9/5
15	野上八幡宮拝殿	1塔		和歌山県海草郡野上町小畑	1573	1944/9/5
16	野上八幡宮摂社武内神社本殿	1塔		和歌山県海草郡野上町小畑	1572	1944/9/5
17	野上八幡宮摂社平野今木神社本殿	1塔		和歌山県海草郡野上町小畑	1572	1944/9/5
18	野上八幡宮摂社高良玉垂神社本殿	1塔		和歌山県海草郡野上町小畑	1578	1944/9/5
19	鞆淵八幡神社大日堂	1塔		和歌山県那賀郡粉河町中鞆淵	1392	1931/1/19
20	粉河寺	4塔	本堂	和歌山県那賀郡粉河町粉河	1720	1996/12/10
			千手堂		1760	
			中門		1832	
			大門		1707	

	名称	数	細目	場所	年代	指定年月日
21	鞆淵八幡神社本殿	1塔		和歌山県那賀郡粉河町中鞆淵	1462	1936/4/20
22	旧名手本陣妹背家住宅 (和歌山県那賀郡那賀町)	3塔	主屋	和歌山県那賀郡那賀町大字名手市場六四一番地	1718	1969/3/12
			米蔵		1750	
			南倉		1750	
23	三船神社	3塔	本殿	和歌山県那賀郡桃山町大字神田	1590	1969/3/12
			摂社丹生明神社本殿		1599	
			摂社高野明神社本殿		1599	
24	増田家住宅(和歌山県那賀郡岩出町)	2塔	主屋	和歌山県那賀郡岩出町大字曾屋一七三番地	1706	1969/3/12
			表門		1712	
25	根来寺大師堂	1塔		和歌山県那賀郡岩出町大字根来	1391	1941/5/8
26	丹生都比売神社楼門	1塔		和歌山県伊都郡かつらぎ町大字上天野	1466	1908/4/23
27	宝来山神社本殿	4塔	第一殿	和歌山県伊都郡かつらぎ町大字萩原	1614	1943/6/9
			第二殿		1614	
			第三殿		1614	
			第四殿		1614	
28	丹生都比売神社本殿	4塔	第一殿	和歌山県伊都郡かつらぎ町大字上天野	1715	1965/5/29
			第二殿		1487	
			第三殿		1901	
			第四殿		1469	
29	丹生官省符神社本殿	3塔	第一殿	和歌山県伊都郡九度山町字慈尊院	1517	1965/5/29
			第二殿		1517	
			第三殿		1541	
30	慈尊院弥勒堂	1塔		和歌山県伊都郡九度山町字慈尊院	1332	1965/5/29
31	栗山家住宅(奈良県五條市五条)	1塔		奈良県五條市五条	1607	1968/4/25
32	榮山寺七重塔	1塔		奈良県五條市小島町	1184	1909/4/5
33	御霊神社	3塔	本殿	奈良県五條市中之町	1472	1916/5/24
			境内社早良神社本殿		1472	
			境内社他戸神社本殿		1472	
34	安楽寺塔婆	1塔		奈良県御所市大字稲宿	1332	1961/3/23
35	吉野水分神社	6塔	本殿	奈良県吉野郡吉野町大字吉野山	1605	1901/3/27
			拝殿		1605	
			幣殿		1605	
			楼門		1605	
			回廊		1605	
			回廊		1605	
36	吉水神社書院	1塔		奈良県吉野郡吉野町大字吉野山	1392	1915/3/26
37	宝篋印塔	1塔		奈良県吉野郡吉野町大字山口薬師堂境内	1278	1957/2/19
38	金峯山寺銅鳥居	1塔		奈良県吉野郡吉野町大字吉野山	1466	1942/12/22
39	鳳閣寺廟塔	1塔		奈良県吉野郡黒滝村大字鳥住	1369	1915/3/26
40	春日神社本殿	1塔		奈良県吉野郡西吉野村大字向賀各生	1466	1923/3/28
41	西田家住宅	1塔		奈良県吉野郡西吉野村大字鹿場六番地	1660	1968/4/25
42	堀家住宅	1塔		奈良県吉野郡西吉野村大字和田四八番地	1572	1979/5/21
43	大峰山寺本堂	1塔		奈良県吉野郡天川村大字洞川	1691	1973/6/2

注) 国宝は有形文化財(建築物・絵画・彫刻・工芸品・書籍・古文書)を記載しているが、重要文化財については有形文化財のうち建造物のみを記載した。

出典：和歌山県・奈良県教育委員会文化財

(3) 世界文化遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』

「紀伊山地の霊場と参詣道」は三重・奈良・和歌山の三県にまたがり、「紀伊山地の自然」がなければ成立しなかった「山岳霊場」と「参詣道」、および周囲を取り巻く「文化的景観」が主役であり、日本で唯一、また世界でも類似のない資産として価値の高いものである。これら「文化的景観」を守っていくためには、単に神社や仏閣など文化財として指定されているものを保存すればよいというのではなく、基盤となっている自然も良好な状態で維持する必要がある。

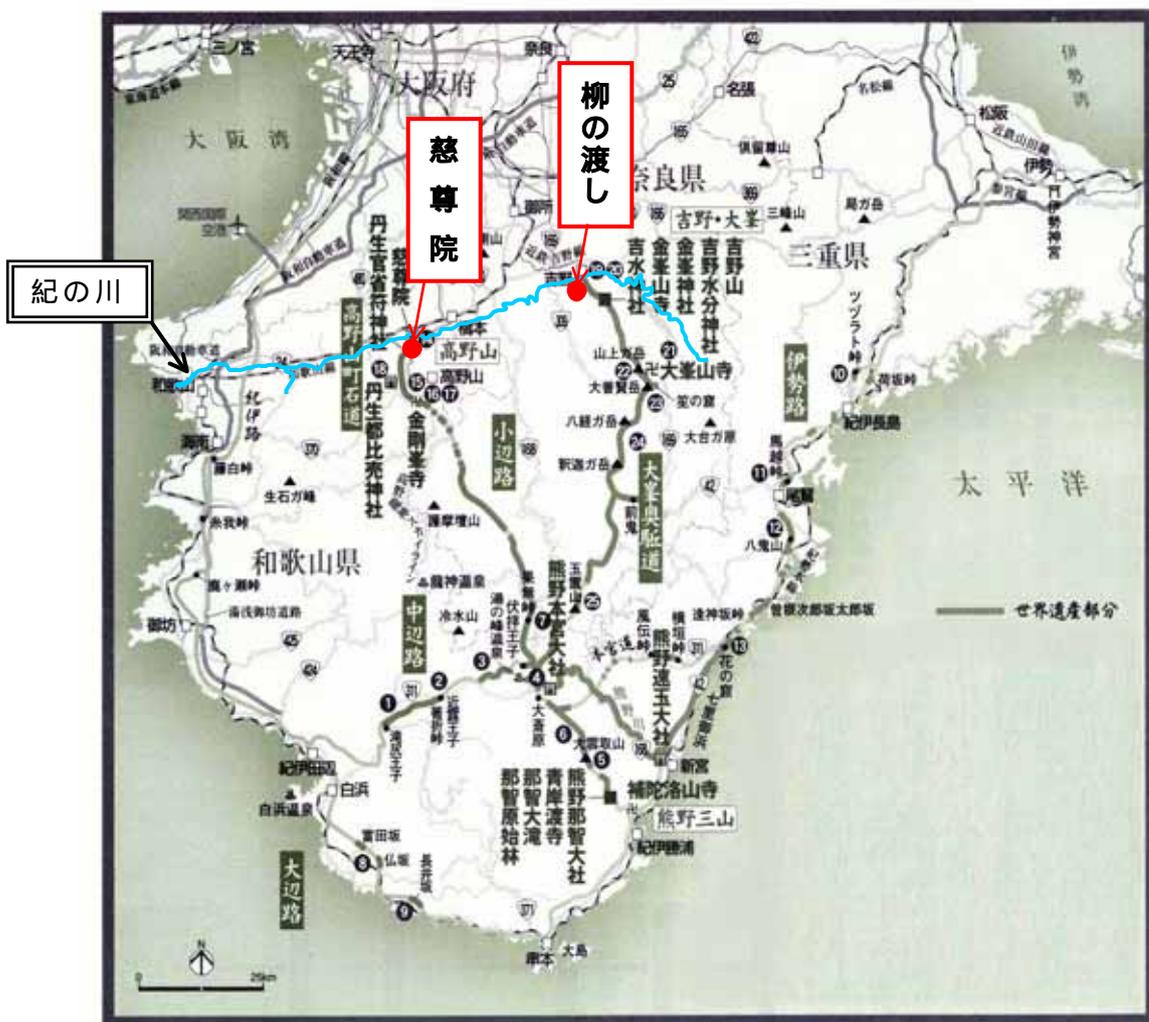


図 2-2 エリアマップ

出典：「世界遺産の森へ」山と溪谷社より

慈尊院



慈尊院は熊野古道『小辺路ルート』の入口である。

高野山の表参道、町石道^{ちやういしみち}はここが起点となっており、小辺路ルートは高野山を越えて熊野本宮大社へと続く。

816（弘仁7）年に空海によって創建された寺で「女人高野」の名で呼ばれる古刹^{こしかつ}。空海は高野山に女人の立ち入ることを厳しく禁じ、自身の母も入山を許さなかった。そこで、空海の母は高野山の麓にあるこの慈尊院に住み、ここで逝去した。空海自身も冬は山を下り、ここで過ごしたと伝えられる。

柳の渡し



紀の川沿いに建つ柳の渡しは、修験道「奥駆け」の七十五箇所^{ななひき}の行場（七十五摩）の最初の地であり、熊野古道『大峰奥駈道』の入口にあたる。

修験道とは厳しい修行を行うことにより様々な験^{しるし}を得ることを目的とする宗教で、その昔、修験道の祖・役行者^{えんのぎやうじゃ}がこの大峯の地で本尊、金剛蔵王権現^{こんごうざおうごんげん}を感得したといわれている。

かつて吉野に入る行者たちはここで身を清めていった。昔は上流の「桜の渡し」下流の「椿の渡し」と共に交通の要所でもあった。現在は天明6年（1786）の銘のある灯籠と、柳と桜の木が植えられているのみである。

2-4 自然公園等の指定状況

紀の川流域では、自然公園法に基づき、河口部付近の和歌浦が「瀬戸内海国立公園」に指定されているほか、流域の最上流部の大台ヶ原周辺が「吉野熊野国立公園」に指定されている。そのほか流域内には、国立公園として「金剛生駒紀泉国立公園」、「高野龍神国立公園」、県立自然公園として「大池貴志川県立自然公園」、「紀仙峡県立自然公園」、「かつらぎ高野山系県立自然公園」、「県立吉野川津風呂自然公園」が指定されている。



図 2-3 流域内の公園位置図

表 2-5 流域内の公園概要

公園名	面積 (ha)	指定年月日	公園の特色
瀬戸内海国立公園	和歌山 482	1950.5.18	海岸美
吉野熊野国立公園	59,789	1936.2.1	渓谷美, 山岳美, 滝
金剛生駒紀泉国立公園	23,119	1958.4.10	山岳美, ブナ林
高野龍神国立公園	19,198	1967.3.23	古寺, 山岳美, 温泉
大池貴志川県立自然公園	545	1954.5.5	池, ダム湖
紀仙峡県立自然公園	1,706	1958.4.7	古寺, 都市近郊緑地帯
かつらぎ高野山系県立自然公園	750	1967.1.6	高原, 渓谷美
県立吉野川津風呂自然公園	2,462	1972.4.28	渓谷美, ダム湖, 遺跡

出典：和歌山県統計年鑑, 奈良県森林保全課